

◎毎月十八日は観音さまのご縁日、観音会。午前八時よりお勤めの後、下座行。※八月は前日が施餓鬼の為、お休み。

# 法 光

真言宗御室派	清蓮山森泉寺	新聞「法光」は檀信徒の皆様にご当山の活動をお知らせすると共に弘法大師の御教えを分かりやすい言葉でお伝えする目的で発行します。
〒710-1312	倉敷市真備町辻田一六二	
TEL 086-698-1072		

## 暑中御見舞い

### 申し上げます

梅雨が明け、いよいよ夏本番を向かえるこの季節、檀信徒の皆様方には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より森泉寺護持発展の為、ご協力いただき、誠に有難うございます。

さて、お盆を迎えるにあたって、日々のお勤め、法事やお墓参りの際にも通じる、主な御供物について解説したいと思います。

お勤めをする前にはまず、仏壇の荘厳を整えます。きれいに掃除をし、花瓶のシキミやお花の水も取り替えます。こうした作業をする中で、自然と自分の心が整っていきます。

そして、ろうそくに灯明を灯し、線香をあげ、霊供膳または仏飯、茶湯やお水、果物、菓子などをお供えます。

御供物のうち、特に大切なのは水、塗香（手に塗るお香）、花、焼香（または線香）、ご飯、灯明です。以上六つの御供物を六種供養といい、それぞれが仏さま（菩薩）が努め修する六波羅蜜行（ろっばらみぎょう）にあたります。

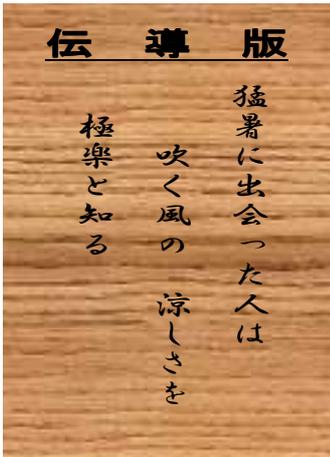
水は生命全ての源であり、諸々の貪りの苦しみを潤すのでこれをお供えることで「布施波羅蜜」を表し、塗香は身を清め、煩惱の垢を清浄にするので「持戒（波羅蜜）」を表し、花は厳しい冬の寒さに耐えて美しい花を咲かせ、見る人の心を和ませることから、慈悲の心でいかりを消滅させる「忍辱（波羅蜜）」を表し、焼香はあまねく法界（いのちの宇宙）に至り、身を焼きながら良い香りを薫じ続けるので、「精進（波羅蜜）」を表し、「ご飯は身の栄養となり心の安定をもたらすので「禪定（波羅蜜）」を表し、灯明は闇を破り、ものごとを分け隔てなく明らかに照らし出すので「智慧（波羅蜜）」を表すとされます。



このように仏さまへの供養の意味を心に抱いてお供えするとき、仏さまやご先祖さまのみならず、供養する者自身の心を豊かにするご利益が施されているのであり、自利（自分へのご利益）と利他（自分以外の方々へのご利益、ご先祖さまへのご供養）とが一体となつたお勤めができるのです。

## 版 導 伝

猛暑に出会った人は  
吹く風の涼しさを  
極楽と知る



## 施 餓 鬼 法 要

お盆の時期が近づいてまいりました。当山恒例の施餓鬼法要を左記の通り勤修致しますので、暑さ厳しき折ですがご参拝くださいますようお願い申し上げます。 合掌

記

期 日 平成二十四年八月十七日（金）  
受 付 午前八時半より

法 要 午前九時半～十一時  
「理趣三昧供養法」並びに  
「施餓鬼法」（水棚にて）

法 話 午前十一時  
※当日は各家先祖供養並びに東日本、阪神淡路大震災物故者及び畜類精霊、戦没者慰霊、有縁無縁三界万霊、水子供養を致します。

### 施餓鬼のいわれとその功德

施餓鬼の由来はお釈迦さまの弟子、阿難尊者が夜に一人で修行していた時、焰口（えんく）という餓鬼が現れ、「おまえの命はあと三日で尽き、餓鬼道に生まれるぞ」と告げられた。阿難尊者は驚いて「逃れる術はあるのですか？」と問いかけると焰口餓鬼は「おまえが明日、無数の餓鬼と僧侶、仙人に対して一人一人に飲食を施せば、おまえの寿命は延び、我もまた餓鬼の苦しみから離れ、天上に生まれることができるだろう」と言い姿を消した。

本来、この施餓鬼は広く法界の餓鬼を救済する為に密教行者が毎日行う法です。功德としては滅罪、追善、息災、延寿、不食の病（物を食べられない病、癌など）に効ありと伝わります。密教で重んじる菩薩の修行（六波羅蜜）は布施を第一に挙げ、施餓鬼が最も功德の大きい布施であるとされます。それは天地神祇を含め、一切の餓鬼道の衆生を救済する秘法だからであり、有縁無縁のご先祖さまも他ではありません。ちなみに餓鬼とは満足しない心を持つ人、欲望を抑えられない人のことも指します。

法要のとき本尊さまの前の祭壇とは別に東の縁に施餓鬼棚を設け、経木に水を掛けて供養するのは先述の「布施」行に当たり、それは同時に自身の為ともなるのです。

### お盆の棚経予定

- 七月二十八日（土） 大阪・明石
- 八月一日（水） 玉野・岡山
- 二日（木） 笠岡・西阿知
- 三日（金） 倉敷・妹尾・西坂・山手・清音
- 四日（土） 総社・足守
- 五日（日） 門田・清池・向畑・有井・箭田・川辺
- 六日（月） 石田・中瀬手・東真備・北沼・築・辻田
- 七日（火） 馬場団地・岡田・学園団地
- 八日（水） 西之床・桜・山之谷・市場
- 九日（木） 旧森・新森・石小山
- 十日（金） 砂古・八代
- 十一日（土） 下原（前場・西山根）
- 十二日（日） 下原（中村・中山根）
- 十三日（月） 池田・堂心寺
- 十四日（火） 五反田

◎以上の予定でお参りさせて頂きますがご都合の悪い方はお早めにお寺までご連絡ください。

◎お盆のお墓参りに車でお越しの際は、お寺の西側駐車場をご利用ください。（路肩に停めると他の方の迷惑になります。）

◎西国三十三観音霊場並びに真言宗十八本山参拝…十一月七日〜九日に二泊三日でお参りします。申込締切は十月十日。

ひとひち法話 『中』

仏教というと、現在の日本ではお葬式や法事といった暗い、陰気なイメージを持たれる方が多く、世代が若くなればなるほど、宗教離れが進んでいます。

一方で美仏巡礼といって、仏さまの美しいお姿、その雰囲気から癒しを求める若い方(特に女性)もおられるようです。

でも仏教とは生きることに対して積極的な教義で、例えば、誰しも避けては通れない生老病死を代表する「苦」は、ただ悲しい、苦しい、嫌なことと捉えるのではなく、「思ふ通りのなごう」と捉え、目を反らすのではなく、ありのままを受け入れる心を示しています。

現在の日本は複雑な社会であり、悩みも様々ありますが、個々がその見方を変えることでより良い生き方ができるのではないのでしょうか。

写経会(毎月第四日曜日、その前の木曜日)
・七月十九日(木)午前九時半
・七月二十二日(金)午前八時半
・八月二十三日(木)午前九時半
・八月二十六日(日)午前八時
・九月二十日(木)午前九時半
・九月二十三日(日)午前八時
・十月二十五日(木)午前九時半
・十月二十八日(日)午前八時
・十一月二十二日(木)午前九時半
・十一月二十五日(日)午前八時
・十二月二十日(木)午前九時半
・十二月二十三日(日)午前八時
※都合により変更になることもあります。

「ごぼんさん修行」練成会のご案内

夏休みに練成会を開催致します。一日、お寺の生活を通じて心を静め、集中力を養うことを目的とします。お友だち同士、お誘い併せの上、ご参加ください。

日時 平成二十四年七月二十七日(金)

午前八時より午後五時まで

場所 森泉寺道場(基本書院)

予定内容 お勤め、めいそう、習字、掃除、茶道体験など

※詳細はお寺にお尋ねください。

第七回 観月会

美しい満月、そして境内のツワブキも見頃となる十三夜に観月会を催します。皆様から寄せられる趣味の作品は当日から月末(三十一日)まで展示致しますので、近所お誘い合わせの上、お気軽にお越しください。

日時

十月二十七日(土) 十三夜

午後七時〜九時(雨天決行)

会場

森泉寺大悲殿(入場無料)

予定内容

- ・奉納演奏(未定)
・献茶、抹茶のお接待
・趣味の作品展示(有志)
・書道作品展示(下原婦人会他)

※当日はお寺の西側駐車場をご利用ください。

※日頃、皆さんが作られている編み物や刺繍、彫り物、パッチワークなどの作品展示に協力をお願い致します。

※作品の搬入は展示会場準備の都合上、十月二十四日(水)までお願いします。

※作品は展示の後、お返し致します。

森泉寺表参道石段修復作業

以前から表参道の石段は雨で浸食されて、でこぼこでつまずきやすく、足をくじく危険もあるとのお声がありました。そのことを気にかけてくださった有志の方々八名により、去る三月十四日から二十五日にかけて階段修復作業が行われました。

六十二段の石段、一段一段の傾いた踏石をバールで起こし、間に石をかませ、なるべく水平で歩き易いように、また自然の風合いとなるようこだわって、赤土、真砂土、石灰、セメントを混ぜて踏み固め、仕上げに板で叩いてしめるといった昔ながらの工法で行われました

まだ風が冷たく、雨にも見舞われる寒い時期でしたが、手をかけた分少しずつ良くなっていく石段を眺めながら、作業に携わってくださった方が「一段一段がええ思い出になるなあ」とうれしそうなお顔を見せてくださり、有り難さが身に染みしました。

最後には山門周りの排水や土入れまでしてくださり、見違えるほどきれいになりました。誠に有難うございました。

永代供養塔完成
森泉寺墓地の南西にあります無縁墓の敷地に「永代供養塔」を建立、去る六月二十五日に開眼供養致しました。五輪塔の下端が納骨堂となっており、無縁仏となったご先祖さまを永代に渡つてご供養致します。

※詳細はお寺までお尋ねください。

安芸の宮島 大本山大聖院 秋季大祭火渡り神事参拝のご案内

平成二十四年十一月十五日(木) 大河ドラマ『平清盛』で今話題となっている世界遺産の宮島。紅葉を愛でながら、大聖院へ参拝します。参加ご希望のお方はお寺までお申し出くださいませ。募集定員：二十五名 参加費：九千円程度 申込締切：十月末日(但し、定員になり次第締切)

報 告
今年四月に住職所属の事相研究会の一団が東日本震災被災者支援活動として石巻市へ赴き、お寺に寄せられた募金(計四万五千円)を皆様のお心と共にお届けしました。ご支援くださった方々に厚く御礼申し上げます。

また、被災地視察、震災物故者慰霊法要、被災者との対談も行いました。

まだまだ、現地の状況は厳しく、仮設住宅で一年先の生活すら見通しの立たない不安な日々を過ごす方が多くおられます。今後とも皆様のご支援を募って参りますので、ご協力の程宜しくお願ひ申し上げます。

〜昨年までの支援活動〜
募金十三万円を山陽新聞社会事業団を通じて被災地へ送金。【四月六日】
支援金十萬円で購入した夏用衣類等の物資と持参頂いた物資(計二百七十四点)を石巻市河北総合支所生活市民課へ送る。【六月二十日】

訂正とお詫び
前号、年末発行の新聞の中で『平成二十四年度年忌表』に「十七回忌 平成八年亡」の記載が漏れていました。深くお詫び申し上げます。

◆御礼 境内および周辺の掃除、仏さまへの生花のお供えを心掛けてくださる方々、いつも有難うございます。